

「点検」はしているが「更新」はされていない公園遊具の問題。

●「古くなったから使用中止」は市民サービスとはいえない。

以前から公共施設の維持管理問題について指摘し続けてきました。「建てたら建てっ放し」のハコモノ行政は、収入が多い時代にたくさん造られてきたので、収入が少ない現在に維持管理が困難になっているのが根本的な問題です。未来のことを考えない政策が打たれてきたからこそ、いま、その反省点に立って「あるものをキチンと管理していく」政策が必要とされています。

公共施設や下水道などの修繕も含めた維持管理計画は、今年度から策定段階に入りました。なので、私も「次に維持管理しないといけないうもの」の指摘に移りました。公園の遊具です。

公園遊具については多くの保護者から「古いけど安全なのか？」という指摘をいただけてきました。

1990年代、公園遊具の痛ましい死亡事故が多発して以来、遊具の定期点検は確りと行われてきましたが、その更新はほぼ全く行われていないとのこと。「古くなって危険な状態になれば、使用中止」という判断を今までしてきたようです。

「危険だから遊具撤去」は「管理」とはいえませんが、子供達の遊び場所が減っている昨今において、公園遊具の維持管理は重要な課題です。

●遊具の更新に要する財源確保策を提案。

「しっかりと遊具の更新をしてください。それに要する財源の工面も職員が考えて」では議員として無責任です。無い袖は振れないという現実を解決する手法を議員も考えねばなりません。

そこで提案したのが国土交通省の公園施設長寿命化計画の策定。これをする事で、国からの交付金による遊具の更新が可能になります(もちろん、税金ですが使わない手はありません)。この計画策定を進め、安全な遊具で子供達が元気に遊べる環境を提供するよう提案しました。

また、住民主体の公園整備が全国的に広まりつつあります。北九州市では育児サークル、公園愛護会、自治会等で一緒に計画づくりをおこない、安全策を設け乳幼児向け遊具を設置するなど、利用者目線に立った優しい公園の再整備が行われています。

●利用者の安全意識も大切です。

消費者庁によると、遊具による子供の事故は3月～5月が最も高いとのこと。そして、それらは老朽化していない遊具で発生しています。滑り台を逆から登って転落し重傷を負った事例やポンチョが引っかかる事故などが報告されています。特に就学前の子供達が安全に遊ぶには、私たち保護者の安全意識も問われています。

予算委員会

高石斎場の墓地管理問題、台帳整備に向けて大きく前進。

●平成28年度当初予算に台帳整備委託料が計上されました。

「自分の墓まで行くのに、他人の巻石を踏まないと辿り着かない。」という問題がずっと指摘されてきました。すべてのお墓が使用者によってキチンと管理されていればいいのですが、放置され雑草が伸びているお墓、つまりは使用者が実在しているか不明なお墓を改善することすらできません。なぜなら「誰がどのお墓を管理しているか」の台帳が作られていないからです。そこで、この半年をかけて訴えてきたのが「台帳整備」。この台帳がないと、何事も前に進みません。

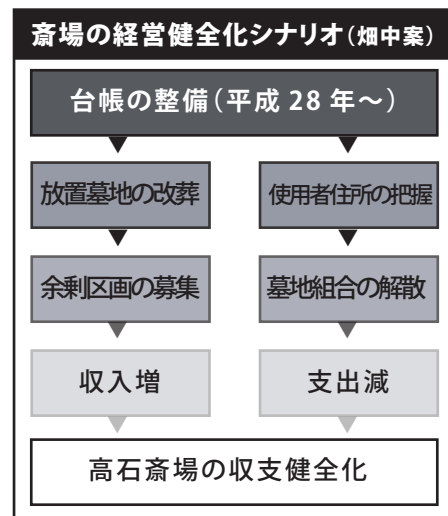
約3700基ある高石斎場の台帳を作っていくのは時間のかかる作業ですが、今年度から本格実施されることに。「大変だけど、いつかはやらなくてはいけない作業」に対し、議会から指摘された直後に予算化され行動に移していただいたことに高く評価したいと思います。高石斎場に墓石をお持ちの方には住所等の確認の連絡があるかも知れませんが、ご協力いただければ大変有難いと存じます。よろしくお願い申し上げます。

●斎場の老朽更新の財源確保が急がれる。

高石斎場の抱える問題は台帳だけではなく。塀の老朽対策、水場の改修等の整備費用に約4000万円が必要とされています。約7000万円

の墓地組合予算からすれば多額の費用。そんな問題解決に向けて提言したのが「組合の解散」。墓地組合は高石市と泉大津市からそれぞれの議員が派遣されています。組合であることから、管理者（高石市長）や議員の報酬を支出せねばなりません。しかし、墓地組合が組合であることの時代的役目はもう終わっています。よって、組合を解散させ、支出減を図るべきです。

ここで考えねばならないのは、高石市と泉大津市の負担割合の適正化。台帳がないということは、どの市民がどれだけの墓地を所有しているかが分からない状態でもあります。墓地関連の支出は上述のようま老朽更新等で大幅に必要なとされることから、負担割合（例：墓地の使用数割など）の公平性が求められます。そういった意味からでも台帳整備は急務なのです。



墓地議会

高師浜線活性化、三者の歯車を連動させよ。

平成24年より南海高師浜線の存廃問題が浮上し、それ以来、高石市は当該線路の活性化策を打っています。当時「高石市単独で努力しても効果は少ない。行政・市民・南海の三つの歯車がかみ合わないと空回りになる」と指摘しました。

その時から今日まで高師浜線活性化で費やされてきた事業費は約4600万円（レンタサイクル、企業バスターミナルなど）。年間1000万円の税が投じられ、あがった成果は「乗降客数の微増」。事業によっては効果が薄かったものもあり、いくらひいき目で見ても「高石市の空回り感」は否めません。

そこで今回は「羽衣駅での接続」を指摘。「羽衣駅に停車したと同時に電車が発車される」という羽衣駅の接続問題を提起。関連する時刻表をすべて突合させて、「停車と発車が同時刻になっている時間」を指摘し、「乗換における現在の時刻表がベストではないという事実」を洗い出しました。※市との協議において、それまでは「ベスト」と答えられていました。

つまり、南海も歯車をかみ合わせて連動できる余地はまだまだ残されているという証左です。乗り継ぎ時の時刻表の改正、このことを交渉しなければ活性化は成り立たないと訴えました。

一般質問

選挙で訴えた政策提案の達成度 ※一部抜粋

1. 公共施設の計画的な維持管理(ファシリティマネジメント)

建てた後の維持管理費の問題まで考えていなかったため、大規模な改修が迫られても何もできず。その典型例がかつての学校耐震化問題。長期的な計画策定を要望。

実現 ※国からの通達もアリ
H28～計画策定中

2. 通学区の編成

南海高架化を契機にいびつな校区の編成を4年間訴え続けている。教育委員会の答弁はいまだに「慎重な研究を続ける」と一点張りだが、点滴石を穿つよう訴え続ける。

提案済
H24～提案進行中

3. 議会改革

議会本来の機能を高め、市民から信頼してもらえる高石市議会にすべく、議会だよりの編集や審議状況の透明化など、遅れている議会改革に取り組んでいる。

進行中
H27～議論継続中

4. 福祉バスの利便性向上

西取石に停留場が少なかったり、市外の集客施設への運行などを提案。本年度から福祉バスが2便から3便に増便され、より利便性が向上される方向に。

実現 ※まだ道半ば
H28～増便決定

※議員には執行権がないので、私が提案する政策は職員や他の議員の理解があればこそ実現できることも合わせてご理解ください。